

地域における町内活動の役割に関する研究  
- 町内会長の聞き取り調査から -

新潟医療福祉大学 社会福祉学科  
渡邊 敏文

【はじめに】

最近、地域における住民活動が盛んになってきた。2008年「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書」が出された。町内会は「地域における新たな支え合いの概念」で地域の共助の担い手の一つとして位置付けられており、「地域福祉を推進するための環境」では、ボランティア等と共に地域福祉の一役を担っている。さらに、「重層的な圏域設定のイメージ」では第1層として自治会・町内会の組・班の圏域が、第2層として自治会・町内会の圏域が位置付けられている。

### 【目的】

山形県鶴岡市は地域福祉計画の策定過程において、地域住民が抱えている問題等を把握するため、2002 年 11 月～2003 年 3 月にかけて、自治会・町内会を単位とし 133 地区で「みんな こばえちゃ 暮らしの車座トーク」（住民座談会）を開催した。2,100 名の参加者があり 5,299 の意見が出た。現在は、自治会・町内会単位での見守り・支え合い活動の展開もされている。このような地域福祉における活動が実施されている鶴岡市の町内会で聞き取り調査を行い、その現状を分析し町内活動の役割を見出したい。

### 【方法】

平成 21 年 5 月, 山形県鶴岡市の町内会長に半構造化面接を行った。質問は, 地域の住民参加活動について①どのような取り組みを行ってきたか, ②上記に関して、どのような人が参加したか, ③現在の地域の住民参加活動の課題について, ④地域の住民参加活動を行って、住民の意識（助けあい）に変化は生じているか（それが地域の繋がりにどのような影響を及ぼしていると思うか）, ⑤どうしたら地域の住民参加活動が、より活発化するか、の 5 項目とした。①②については逐語録を言語化し、まとめ整理した。③④⑤の項目については、逐語録から言語化された資料を適確に把握することや、その関係性を見出すため、関連性評定質的分析 Relatedness Evaluation Qualitative Analysis（以下、KH 法）による分析の第一形式の関連性評定によるカード布置を行った。

### 【結果】

町内会が主催して行っている主な活動と内容は、①敬老祝賀会は、町内にいる75歳以上の高齢者52名が警察や交通安全協会から借りたテープを視聴し、交通事故に対する認識を深める。②ふれあいサロンは、毎月1回、年齢の制限をなくし、平均20人位の参加者で公民館にて行っている。参加費は無料である。町内会からも費用を助成している。③夏祭りは、日中は子ども会を中心とした「地蔵みこし」を行い、夜はビアガーデンを行う。④運動会は年3回行っている。

③④⑤の質問項目についてはKH法による分析の第一形式の関連性評定による布置を行い、図1のように整理できた。

図1 関連性評定質的分析 (KH法) による分析の第一形式の関連性評定

	カードの内容	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7		
1	住民参加活動の課題	転居してきた人	どこの自治会に入るかの開発	→	→	→	課題解決			
		新興住宅地の開発		→	→	→				
		半強制的な繋がり構築	逆効果	→	→	→				
		年代間の繋がり構築が難しい	→	→	→	→				
	活動に参加する際の移動に危険が伴う	→	→	→	→	→				
2	住民参加活動を行ってからの住民意識（助け合い）の変化	挨拶をする	→	→	→	→				
		共通の話題ができる	→	→	→	→				
3	地域の繋がりによってどのような影響を及ぼしている	顔見知りになる	人の繋がりができる	自治会の輪	→	→	→			
4	どうしたら地域の住民参加活動がより活発化するか	自治会の行事	意識的に作る	どの年代も参加できる	誘い合って参加する	個人同士が繋がりを作る	人の繋がり が容易	この自治会に入ってよかった		
			楽しい行事	→	→	住民同士が接する機会を増やす				
		町内の清掃	公民館の定期清掃を企画	→	→	接する機会を創る	→			
			→	→	→	団体や組織同士が繋がりをつくる	→			
		隣組	自治会の下の単位の隣組の活発化	→	→	→	→			
			みんなが集まれる公共の場の設置	→	→	→	→			
		組長さんや、自治会を牽引してくれる人選	→	→	→	→	→			
		資金の支援	→	→	→	→	→			

レベル1においては、質問項目に対して最も身近で具体的な段階である。レベル2はそれらの項目を1レベル統合したものである。これらを積み重ね、レベル7の「この自治会に入ってよかった」というところまで導くことができた。

【考察】

町内会は地方自治法上の「地縁による団体」にあたり、「町又は字の区域その他市町村内の一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて形成された団体」と規定されている。主な活動は①夏祭りや運動会などのレクリエーションの実施、②いきいきサロンや子ども会、老人クラブへの支援・育成、③自主防災や互助活動、④自治会の不動産・街路灯の設置、維持・管理等が挙げられる。町内会の活動は地域住民の全員参加を基本とした最も身近な住民自身が行う活動であり、地域の「人の繋がり」の構築（レベル6）、「課題解決（レベル7）」をはかる重要な役割を果たしている。また、町内会は行政への繋ぎ役や行政との協働においても重要な役割を果たしている。地域が抱えている課題を全て町内会で解決することは難しい。他の町内会や団体・組織、課題によっては専門職の力も必要となってくる。

これらのことから町内会は、住民に最も身近な地域福祉を推進する上での要になっているということができよう。

### 【参考文献】

中田実『地域分権時代の町内会・自治会』自治体研究社 2007